第９８回『謳粋会』の記

会長　篠田　康

開催　日時　平成18年10月12日(木)
　　場所　黄桜台場醸造所『蘂(はなしべ)』

久し振りに秋空が晴れ渡って清々しく抜けるような碧空だ、今年は秋雨前線が長く居座り、つい先日の十五夜の月も関東では拝めなかった。

前回『はなしべ』で会を開いたのは第54回『謳粋会』で平成15年２月14日でした。出席者は18名で、お席は奥のガラス張りの床で、足元から照らされる照明が、何か面映ゆいような、またその反面肩を聳やかしたいような気になる雰囲気のお席でした。丁度この日は聖バレンタインデーにあたり、長戸さんからチョコレートを頂いたことを思い出す。これは幾つになっても嬉しいもんだ。早いもので、あれからもう、３年半余りが経過し、お台場の開発は増々進み、今も大きなビルの建設工事が何ヶ所かで行われている。

あの時の懐石料理どそれに、台場で醸造した搾りたての銘酒を料理ごとに替えて出されるのは良かった。また、宜しければやって欲しい、というご要望にお応えして、今回はリバイバルで開くことにしました。

新橋駅を発車した**ゆりかもめ**は汐留のビルの間を縫って走る。右手に貿易センタービルの窓明りが、そしてその向こうには、東京テレビ塔の赤いイルミネーションで着飾った姿が、暮靄の中に望見出来る東京の夕暮れだ。

汐留、それは我が国鉄道の発祥の地。明治５年に初めて新橋～横浜間を走った陸蒸気（当時は海の蒸気船に対してそう呼んだそうだ）の起点であり、０kMの粁程標が今も大切に保存されているはずです。

時計は５時半で１時間早いのだが、『はなしべ』の暖簾を潜った。店長の小松さんに記録上必要なことをお聞きする。元三井クラブにお務めだったと言う小松さんは丁寧に教えて下さる。前回お世話になった醸造責任者の寺沢さんもわざわざ蔵の奥から挨拶に来られた。

今日も露木さん、山田さんは早々に出席された。先月は急な出張で予約を取り消された平本さんも、今回は無事に参加された。定刻になったが、まだ三人見えないので少し待って頂きましたが、でも、直ぐに全員揃いました。

今回は珍しく皆藤祐治(昭31年卒)さんが出席された。腰を痛めて歩行困難になり、それでも無理して会に出て居られましたが、ついに、平成16年３月の会『**アルファンブル**』以来休んでおりました。あれから２年半治療に専念されて、今日、再び出てこられたことは皆様と大きな喜びで、早速、皆藤さんに乾杯の音頭をお願いし、**食前酒のカクテル**で乾杯をして宴に入りました。

白く薄濁りのカクテルは、ホンノリ甘いがスピリットも効いて、アペリチーフらしく食欲を掻き立てるには最適だが、空きっ腹にはチト応えるモノだった。後は、美味しい旬の料理の一つ一つに台場の蔵の搾り立てが付いて、贅沢な味を堪能することが出来ました。ウオーターフロントの夜風に優しく頬を撫でられながら、再び**ゆりかもめ**に送ってもらいました。